

¡Hola, amigos!

第087号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝04:00時から08:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年11月25日 カァディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは086号(11月18日)、085号(11月11日)

084号(11月04日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



***今週号* No. 087 (2005年・第48週)** 11月25日更新

「もう一つのタルヘタ」の巻

皆さんこんにちは。

クリスマスまであと一ヶ月ですね。街の通りという通りはすっかりイルミネーション

の取り付けが終わり、12月1日の点灯を待つばかりになっています。

デパートもクリスマス一色、日常的で地味な商品は隅に追いやられ、オモチャ売り場が普段の3～4倍に広がっています。コレは日本でも全く同じ光景でしょうが、日本

とはチョット違う商品もクリスマスになると幅を利かせます。

第一はトゥロン turrón というのを中心に各種のクリスマス用のお菓子。

トゥロンは普段でも売っているんですが、どちらかという去年の売れ残りの的にお菓子の棚に少しです。ところがクリスマスが近づいた今、どのスーパーでも所狭しとア

일랜드などの特設売り場を設けて山のように積み上げています。

そのトゥロンは前に紹介しましたね、アーモンド・胡桃・ピスタチオなどを餡で固め

た、言わば日本のタンキリです。このほかにも同類が色々あります。

もう一つの目玉はなんと言ってもやはりハモン・セラーノ jamón serrano です。

普段は切り売りや真空パックのを買っている人も、クリスマスだけは張り込んで一本買いをして、自前の架台に据えて自分でナイフを入れたいと願うようです。切りたて

の味と香りもさることながら、丸々全部我が家で食べてしまう満足感がたまらないのでありましょう。骨も脂肪もスープに使えるし捨てるところがありません。

天気は相変わらずすっきりしません。晴れて暖かい日が2～3日続いたかと思うと、

その反動で、2～3日グズツキます。一雨ごとに確実に冬に向かっている感じです。



週明けの夜も寒冷前線通過で大荒れ。ピカピカ・ゴロゴロと賑やかなことでした。時折横殴りの強い雨が二重のガラス戸を叩くし、近い雷鳴ではびりびりと振動していました。こういう荒れた夜の翌朝はめっきり冷え込むのが通り相場です。

日本の天気予報は、気象予報士というプロが出現して以来、かなり信頼性が増したと思います。勿論、膨大な資料をコンピューターで処理できるようになったことも大いに貢献している筈ですが、もう一つ見逃せないのは、各気象予報士が「何故そうなるのか」という解説を事細かにするようになったことです。

いい加減なことを言ったら赤っ恥。予報士個人の名誉にかかわりますね。個人名の見えない団体が出す予報より、個人が名誉を掛けて出す予報を信頼したい。

スペインのテレビは殆ど解説ヌキ。天気図を見せるのは一局だけです。Rのようにヒネくれた人間は明日の天気はコウだよ、と言われても素直に信ずる気持ちはトテモおきません。自分自身で過去・現在と予想天気図をにらんで、自分なり判断してきた長年の習性がそうさせるのかも知れませんが、天気図ナシ解説ナシの予報を信ずる気にはなりません。スペインの人は解説を聞くのがめんどくさいのかな？

最近では専ら観天望気に頼っています。信ずるに足らない天気予報で降ると言われてカンカン照りに傘を持って歩くのはマヌケですが、自分の判断で折りたたみ傘を持って出て降られなかったら、傘は保険だった、と思えるのです。



最近、街の旅行社の店頭にはこんなビラが一杯出ています。多数の宣伝ビラの共通項はプエンテ・デ・ディシエンブレ puente de diciembre 直訳すると12月の橋。

こりゃ一体なんだろう？と思って辞書を引くと、チャンと出ていました。休日と休日
の間の平日に橋を掛けるようにして連続した休日にする事。

12月6日・8日は国民祝日です。だから3・4・6・8・10・11と豪華9日間の飛び石連休になる。日本なら「飛び石」と言うところを、「橋」を掛けてならして
連休にしてしまおうという発想。下にある水は忘れてしまえ、ですね。

私達のように連休も週末も関係ない人間はそういう時はジッとしているに限りませんが
商店も休むところが多い筈だから、食料と飲料水と命の水の確保だけは抜かりなくや
っておこうと思っています。マルタはその旅行ラッシュを避けて11月26日から一
週間日本へ旅行だそうです。アレハンドロ(息子)が京都を案内してくれるの、とウキ
ウキ。ブエン・ビアへ Buen viaje いい旅を・・・、日本をよく見てきてネー。

海岸遊歩道に面した飲食店は、早くも来春まで店じまいして改装に掛かったり、一ヶ
月以上の休暇に入った店が多い。夏だけの商売で食えればイイですねー。

¡Aprovéchese de ser mayor!

Si tiene más de 65 años y reside en Andalucía está de enhorabuena.

*Andalucía es la primera Comunidad Autónoma que ha puesto en marcha una **Tarjeta Gratuita** que le permite disfrutar de prestaciones y servicios sociales de forma ágil y directa, la **Tarjeta Andalucía Junta sesentaycinco**.*

Con esta Tarjeta obtendrá beneficios directos en las actuaciones desarrolladas por la Consejería para la Igualdad y Bienestar Social de la Junta de Andalucía.

Más de la mitad de los mayores de Andalucía disfrutan ya de su Tarjeta Andalucía Junta sesentaycinco.

La Tarjeta Andalucía Junta sesentaycinco cuenta con dos modalidades:



Andalucía Junta sesentaycinco

Si tiene más de 65 años y reside en cualquier municipio de Andalucía.

Andalucía Junta sesentaycinco ORO

Si, además de lo anterior, sus ingresos personales del pasado año no superan el 75% del salario mínimo interprofesional.

先日この写真のようなパンフレットが郵送されて来ました。先週お話したタルヘタは居住許可証ですが、これはアンダルシア州政府が発行する65才以上の熟年者優待カードです。こっちは全く知らなかったのに、役所がちゃんとチェックして案内してくれたわけで、カアデイス市民として認められていることを実感しました。

下のタルヘタ・オロ(ゴールド・カード)は65才以上で、なおかつ昨年の年収が全企業一律最低賃金の75%に満たない者、上のベルデ(グリーン)の方はそれ以外。

Rはこの国での収入はないのでオロの資格があるはずですが、そこまで面倒見てもらうのも気が引けます。おとなしくベルデの申請をすることにして、同封されていた申請書に記入の上提出してきました。一ヵ月後には届く筈です。

このカードの特典で一番嬉しいのは州内各都市間のバス料金が半額になることです。これは国鉄の割引カード、タルヘタ・ドラーダの四割より更に大きい割引で嬉しい限りです。なにしろ、この国の鉄道網と運行ダイヤは絶望的に貧弱ですからね。これからは鉄道では行けないところへもバスで少し気軽に出かけられます。

*

居住許可証のタルヘタのほうも早々と更新申請をしてきました。

前回は期限切れの一ヶ月前から、と言われたのですが、今度の事務所ではまだ二ヶ月前なのに、イツでもいいですよ、と言ってくれたのです。

早速、書類をそろえて申請にいったんですが、書類の不備を指摘されて初日は受理されませんでした。そういうことがないように、提出書類はコレでいいですか？と前回の提出書類リストを見てもらって、コレでよろしい、と言ってくれてたのに・・・。パスポートのコピーは最初のページだけでなく、記載のないところも含めて全てのページのコピーが必要だということです。今回は顔写真のある最初の二ページだけでよかったのに、この辺の違いが受付省庁が変わった故の変化なのでしょうか。

仕方なく出直し。その日は先日手続きを聞きに行った時とは打って変わってかなり大勢の申請者がいました。まあ、大勢と言っても10人ぐらいで前の町の国家警察窓口とは比較になりません。その殆どはやはりアフリカと中南米出身者のようでした。パスポート全頁のコピーを取り直して、改めて次の日又出向きました。今度はすいていて待ち時間も10数分。提出書類はこんなものです。

- 1) 居住許可更新申請書：正1通提出、写1通(申請受理の捺印をしてくれる)。
- 2) 最近撮影の証明書用写真：4枚(後日指紋押捺の際提出)。
- 3) 医療保険加入証明書：正提示、写1通提出。
- 4) 収入証明書(年金証書を翻訳したもの)：正提示、写1通提出。
- 5) 住居の賃貸借契約書：正提示、写1通提出。
- 6) パス・ポート：正提示、全ページの写1通提出。
- 7) 現在の居住許可証：正提示、写1通提出。

Nは以上のほかに、婚姻証明書(戸籍抄本を翻訳したもの)：正提示、写1通提出。私達が入室したのは10時半過ぎ。終わって出ると11時過ぎでした。この間窓口の女性は次々と入れ代わり。代わってどこへ行くと思いますか？ 皆、上着を着て館外へ出てゆきます。お茶(又は朝食)に行くんです。日本じゃ考えられないですね。提出する写しと提示する筈の正との照合もナシ。第一、正を見せろとも言わないんです。コレならパスポート全ページの意味は全くありませんね。まあとにかく、申請書の写しに「申請受理」のゴム印をポンと押してくれて、三ヶ月後の指紋押捺を待つことになりました。そして驚いたことに、指紋押捺もタルヘタの受け取りも国家警察分署へ行くように言われました。ナンだそれじゃ事務合理化じゃなくて、今まで内務省一本だった事務に行政省がカンでヤヤこしくなっただけかあ。イヤハヤ。***

「二喜二憂」の巻

この春一時日本へ帰って感じたことの一つに、物価の安定、があります。食品に限って言えば、私達がスペインに旅立った3年前と較べて取り立てて何が高くなったという感じがしませんでした。

勿論、高いものは相変わらず高いのですが、要するに選択の余地が広がって「国産品でなければ」又は国内産でも「ドコソコの〇〇屋のでなければ」というこだわりを捨てれば安いものはいくらでもアルと思いました。衣料品も然り。

私達が2ヶ月の日本の休日を楽しんだ横浜市内のウィークリィ・マンションの近くには食品中心の99円ショップがあつて、加工肉は勿論、野菜など生鮮食品まで売っていて随分重宝しました。しかも24時間営業で、そういう店のないスペインから行くと、その安さ・手軽さ・便利さには驚かされました。

3年前、初めてスペインでの生活を始めた頃は生鮮食品、特に野菜果物の安さにビックリしたんですが、この三年間、物価は急上昇で、特に今年は農産品を中心にかなりの高値です。去年の冬は何十年来という大寒波で、オレンジの木などは実をつけたまま、木全体が凍り付いてしまいそのまま枯れてしまったものも多かったです。

オリーブの木も同様に枯れてしまったのをテレビでは何度も見ましたし、春、日本へ帰るときのマドリードまでの車窓からも、そうして枯れてしまったオレンジやオリーブの木が沢山見えました。

今年の夏はこれまた40何年来とかいう大旱魃で、当然野菜を中心に農産品全般が大被害を受けたはずです。追い討ちのように山林火災も随分多い年でした。

そのうち、いろんな農産物が高くなるぞ、とある程度は覚悟していました。当たり前のように夏以降生鮮野菜は高値安定。高いこともさることながら、品物の悪さが目立ちました。ウチで多食するセロリーなど良いものが殆ど見つからない状態が続きました。この国で一番馴染みのあるオレンジも同様です。秋になってオレンジはさすがに良いものが出回り始めてヤレヤレですが、高値は相変わらず。



最近、私達には嬉しい日本の秋の味覚、柿のイイのが出てきました。柿はスペイン語でもKAKIです。日本で樽柿といっている物や次郎柿に似たものなどいずれもとても美味しいです。安値で1キロ1ユーロ、高値2ユーロぐらい。

柿は中部以北の産で元々寒い所のものだから去年の冷害の被害も、今年の夏の早魃もアンダルシアほど厳しくはなかったのでしょう。値段も平年並。諸事万端値上がりの中で、こういう優良商品が一つでもあるのは嬉しい限りです。

ごく最近気付いた特に上げ幅の大きい商品は写真のお米。手近で買える米で唯一日本人の舌でも我慢できる米がコレなんです、つい先々週までは1キロ4.19ユーロだったのが先週買いに行った時はヌント一気に5.4ユーロ。

$(5.4 - 4.19) \div 4.19 =$ どのくらいになると思いますか？ 28.9%ですよ。

ひどいじゃないですか、全く。スペイン人の主食だったら反乱もおきかねない。

日本種米と銘打ってますがスペイン産で元々産額が少なく、今夏の早魃の影響をモロ受けたと思っていました。ところが、この急激な値上げの理由はどうやらそれだけでなく、テレビ番組のせいもあったようです。

私達も良く見ている全国版の局の料理番組で2週間ほど前SUSHIを取り上げていました。レギュラー出演者のほかに、ヘンな日本人が出てきて鮓についてコメントするんですが、この日本人がまたどうしようもなくワカっちゃいなくて自分自身の鮓の食べ方もナットランのです。

醤油をネタにつけないでシャリのほうにドブプリつけてしまって、そのままシャリを下にして舌に乗せるんです。コレじゃ鮓を食べるんじゃなくて醤油メシを食べることになりますね。ネタの味なんかどっかへ飛んじゃいます。旨いわきゃない。甘エビのニギリなんか醤油もつけずにやはりシャリを下にして頬張っていました。バッカじゃなかるか。こんないい加減な鮓紹介をして欲しくないと思つづく思いました。

その番組を見てあきれていましたが、それからじきにこのひどい値上がりです。この調子でカァディスでは細々としか売っていない日本食品がどんどん高くなつちやかないません。こんなコメンテーターならいっそのこと、日本料理はまずくて体に良くないから食べないほうがイイ、とでも言って欲しかった。

とにかく、この米が唯一、鮓メシにして我慢できる米だったんです。我が家が鮓屋だったら泣く泣く値上げせざるを得ない状況ですね。これは最近の日本食ブームを当て込んだ売る側の思惑が大きく作用したのでしょうか。だって普通にスペインの人が食べている米は1キロ0.5から1ユーロぐらいで特に値上がりはしてないんですよ。

この米の販売元はどうやら日本人らしい。高くしても欲しい人間は買う、と見越しての値上げらしいのが全くシャクに触る。もう鮓はやめようかな。鮓食わなくなつてクタバルわけじゃなし。その他、最近目立つ値上げは右端のオリーブ油。料理用としてはコレを常備しています(生食用はもう少し上級品)。先月までは1本750mlで3.69ユーロだったのが、突然4.09ユーロに1割強の値上げ。しかし、コレは日本種米と違って実際生産がた落ちらしいから仕方ないでしょうね。

写真の右2種の値上がりに反して左2種は優等生。ドライ・サック Dry Sack というのはヘレス(シェリー)の中級品ですが市場では品薄なのにもかかわらず値段はごくわずか下がっています。5.95ユーロ。缶ビールはドイツからの輸入小麦ビールでこれもわずかに値下がりです。500mlが1.06ユーロ。この2銘柄、私達のお気に入りの定番で実に有難い。何しろ命の水ですからね。***

「ベヘール・デ・ラ・フロンテーラ」の巻

また、デ・ラ・フロンテーラ de la frontera です。この言葉覚えてますか？

フロンテーラとは国境のことですが、11～2世紀の頃まだイスラム教徒とキリスト教徒が一応平和的に共存していた当時、両者の接点となっていた町らしいです。この名前が末尾につくと、いずれも町のどこか、例えば建造物や路面などにイスラムの名残が色濃く残っています。言うなれば、国境の町・ベヘールと言うことでしょう。

また、この言葉がついた町は、スペイン関係の旅行案内などに良く出てくる「アンダルシアの白い村」といった趣のところが多いようです。「白い村」はコレまでにもミハス Mijas やフリヒリアーナ Frigiliana を紹介しましたが、この2箇所はフロンテーラではありません。白い村といえば、山間の斜面、小さい家が密集した村落、白壁、レンガ色のスペイン瓦、赤い花、青い空、というイメージでしょうか。

今日の遠足はそういう町のひとつ Vejer de la frontera ベヘール・デ・ラ・フロンテーラです。この町が前二者と際立って違う点は、この町が山間にあるのではなく、平原の中に孤立した小さな山のテッペンにある、ということです。

この町の存在は、去年家探しの為に何回もマラガ～カァディス間を往復していた時、バスの車窓から見て知りました。初めてこの町をその小山の麓のバス道路から見たときはちょっとオドロキでした。

その時、その写真も紹介しましたが、とにかく、下から見ると、山頂にある町の周辺の崖に面した所しか見えなくて、町の全貌は全く分からなかったのです。

カァディスへ引っ越したら是非行ってみよう、と言っていたんですがノビノビになっていて今回ようやく実現しました。

なぜ、一年も行く機会を逃していたかという、どうやらこの町はいったんバスを降りたら自分の足で歩くしかないらしい、それなら夏の暑い時はゴメンこうむる、ですね。更にどうせ行くなら周囲一面、多分アフリカまで見えるような視界のいい時に行きたい、と思って秋になるのを待っていたんです。



右下の Vejer de la Frontera の白丸のすぐ下が山の頂上、町の中心です。町の外周道路からは360度視界が広がります。天気さえ良ければ大西洋一望は勿論、町の南南西にはあのトラファルガル岬 Cabo de Trafalgar、南南東にはマグロの水揚げで有名なバルバーテ Barbate、そして視界さえ良ければ、その方向のはるか向こうにアフリカ大陸が見えるはずなんです、折角上天気の日を選んで行ったのに海上の視界はイマイチで山裾を見渡しただけで終わってしまいました。

バスはカアディスの町を出ると赤の太線を進み、ベヘールの山の麓に達すると街道を外れ山腹に上ってゆきます。今日の話には関係ありませんが、地図の右上方にあるメディナ・シドニア Medina Sidonia という町も紀元前にフェニキア人の開いた町だそうで、そのうち是非行ってみたいと思ってます。



終点のバス停の裏の駐車場から見上げた町の外郭。山腹、と言ってもソウですね—大体8合目を過ぎた辺りにバス停があり、公共の交通機関はそこでオワリ。アトは車を持たない人間は自分の足しか移動の方法はありません。これからあの上までえっちらオッチラです。だから、暑いうちは来たくなかったんです。

天気のいい視界のきく日を選んでいったつもりでしたが視界はイマイチ。天気だけは抜群で、11月中旬だというのにまるで真夏の日差しでした。こうなると保冷バッグの中の冷たいセルベサは強い味方ですが、その代わりソレをやっつける瞬間までは担いで歩かなくてはならぬのが真に不都合。町の中心までの急坂を保冷バッグとカメラワイド・レンズいりデイ・パックを担いで殆どアヘアへで登ってゆきました。

こういう町に住んでいるお年よりは、足も自然に強くなるでしょうが、ソレもいつか限界が来るはず。それ以後は想像するだにツライ話です。独居ではトテモ生活してゆけないと思います。スペインではまだまだ三世代同居が結構あるようですが、全てがそうはいかないでしょうし、こういう所に生まれ育ったら、年取ってからはナカナカ

下界にも降りてゆけないでしょう。どうするのかな？



展望台の一つから。見晴らしは確かにいい。しかし残念ながら海の向こうに見える筈のアフリカは、灰色の雲のように見える海上のフォグバンク（霧堤）のため見えず。



皮肉なことに何にも期待してない反対側の内陸はまずまずの視界。ヤッパリ海が見えなくちゃ折角の眺望も価値なし。バスは左下の急坂をあえぎあえぎ上がってきます。



町を歩いてゆくとこんな風景があちこち。昔は町全体が城郭だったんでしょ、旧市街の周りは其処此処に城壁の一部が残っています。ここは山頂の町だといいましたが

自然の地形そのままに町が出来ているので平らなところが殆どありません。

町の外周道路は車が通れますが、一歩中に入るともう迷路さながらで、車が入れないところが殆どです。勿論市内バスなんかナシ。此処の住人はどこへ行くにも自分の足

で細い坂道を上ったり下ったりしなければなりません。

私達も車ナシの生活が日本にいた時から数えてもう4年になりますが、幸いカアデイスは殆どマッタイラとっていい場所なので買い物にも苦労はありません。片道1時間以内なら文句なしにアルキです。しかし、この町にはほんとに平地がない、こんな

ところには到底住めない。ソレが第一の印象でした。

それに犬の落し物が多いこと。スペインの町はどこでもその傾向はありますがこの町は特にひどい。町の観光課は観光客の誘致に一生懸命なのでしょうが、住民の意識改革は手に余るのでしょう。または、道に犬の糞が落ちていちゃナンカまずいの？とも思ってるんじゃないか。此処だけでなく、どの町でもそういう気配はあります。



低い土地を挟んで正面に見える街区は比較的新しい一般住宅です。こちら側、旧市街ではこんな連続アーチがあるところも珍しくありません。特別な建造物の中ではなくごく普通に一般の人が行き来する路地の上がこんな風になっていたりするんです。驚いたことに、こんな不便な山の上にも住宅開発の手が伸びています。普通なら過疎化しても不思議ではない所、観光以外何の産業もなく、交通機関も本数の少ないバス以外はない所なのにです。私達が行った日も、結構外国人個人旅行者と行き会いました。見たところその殆どはチクラナのドイツ村から来た、という雰囲気漂わせた人たちでした。どうやら、コスタ・デル・ソル（南岸）はもう飽和状態だから、これからはコスタ・デ・ラ・ルース（南西岸）だ、と開発業者のみならずドイツ人移住者も目を付けているらしい。その前にバブルがはじけなきゃいいけどねー。



上がアーチなら、下はこれ。これぞイスラム風敷石道。町全部がそうではなくて一部にコレがある、というところがデ・ラ・フロンテーラという接尾辞の所以でしょう。



これはカトリック教会ですが、塔屋のタイル模様などはなんとなくイスラム風。



旧市街の中はさながら迷路。左曲がりあり。



右曲がりあり。



蛇行あり。



袋小路？かと思えばチャンと抜けてます。



文化遺産の筈なのに、古いイスラムの建造物におっかぶせて住宅にしちゃったり。



オベントも食べたし、もう歩き疲れた、そろそろ帰ろうかとバス停に向かっていたらカラスを見ました。カラスがいたからってナンだといわれそうですが、日本では街中だっのごく当たり前にいるカラス、スペインでは至近距離で見たのは3年間でコレが初めてです。頭が異様に大きいですね、ホントにカラスかな？

2階の窓から路地を覗いていたヨークシャーは下を通ったNにご執心、ワンとも言わずイツまでも見送ってました。犬は犬好き人間を匂いで嗅ぎ分けるのだそうですね。



旧市街の殆ど廃屋という感じの家に貼ってあった売家広告。西・英・独で書いてありましたが、ターゲットはどう考えてもドイツ人。イギリス人はともかく、マトモなスペイン人がこんなもの買うわきゃないワナ。さあ、だまされるのは誰か？***
